

【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 22 号

令和 7 年 1 月 14 日

南島原市立堂崎小学校

校 長 末吉 優

三学期始業式より（校長のことは：概略）

新しい年を迎えて一週間が経った。あけましておめでとうございます。今年のお正月は天気が良く、穏やかな日が続いた。皆さんは元旦の「初日の出」を見ましたか？

私たち日本人は、古くからこの新年初日に昇る朝日を「初日の出」と呼び、一年間の無事と健康を祈り、今年にける想いを新たにしている。皆さんは今年の初日の出をどのような想いで迎えたのか。初日の出は、誰にでもやってくる。しかし、自分の心が新たになった時、自分の中で何かが変わった時、普段見慣れている景色が違って見える、自分だけの「**心の初日の出**」もきっとあるはずである。（よくスポーツの世界で、努力して結果を残した時、「新しい景色が見える」と聞く。）

三学期は、今年度の仕上げと次にやってくる学年への準備をする学期である。「**有終の美**」という言葉を意識してほしい。何かをやり始めることは誰でもできるが、終わり（最後）までやり遂げることは難しく立派（美しい）という意味である。次の学年に向かって大きく羽ばたくためには、この三学期はしっかりと走り切ることが大事。ぼんやりした目標ではなく、何をいつまでにやり遂げるのかなど、しっかりした目標を掲げて取り組んでほしい。

三学期は、登校する日数がわずか50日くらい。この一年間の成長のゴールとして、また、皆さん一人一人が自分の成長を感じ取ることができるよう、悔いのない三学期としてほしい。

保護者の皆様、地域の皆様、三学期もどうぞよろしくお願いいたします。

「若い世代から高齢者に絵手紙を届けよう」プロジェクトに参加しました

南島原市のボランティアグループ「ささえさんの会」では、令和2年度より、高齢者や障がいのある方に、絵手紙を届ける活動をされています。

本校でも、全校児童に「元気でいてください」「長生きしてください」など、心温まるメッセージを添えた絵手紙づくりに取り組みました。

児童が、他者を思いやり温かな心を育む機会となり、ふるさとへの思い、福祉への思いを育てる一助となったのではないかと思います。

3月のタクシー券配布時に、配布されるそうです。



学校評価報告書を配付しました

二学期末、学校評価報告書を配付しました。保護者・児童・学校の職員のアンケート結果を項目ごとに（横軸に）見ながら、3者の認識（捉え方）をまとめたものです。いかがだったでしょうか。

学校においては、これまでの教育活動を振り返り、残り少ない三学期への取り組みについて具体方策を立てたところです。また、次年度を見据えた教育活動の再編成、学校運営の重点努力事項を整理していきます。

アンケート等へのご協力、ありがとうございました。

1月9日（木）・10日（金）書き初め会を行いました。

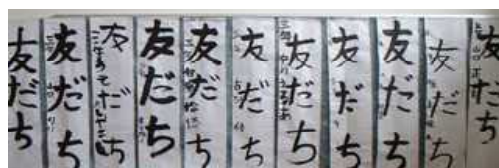
書き初めとは、年に一度行われる日本のお正月行事であり、年の初めに文字などをかくことをいいます。新年に向けた抱負や祈願を書き記すことが多く、目標や努力を表す言葉の他、健康や幸福などを願う四字熟語を書くのが定番です。書き初めを行うことには、一年の目標や抱負を決めるという意味があるようです。私の小学校時代には、冬休みの課題としても「書き初め」が出されていたので、1月2日の午前、寒さを感じながら新鮮な気持ちで取り組んだものでした。皆さんの御家庭でも取り組んだお子さんがいらっしゃったのではないのでしょうか。

新学期が始まり、寒さが厳しかったのですが、1・2年生は教室で硬筆を、3～6年生は体育館で毛筆を行いました。

1年生は、「どうぶつえんでパンダを見た。おいしそうにさをたべていた。」

2年生は、「お正月に、妹とたこあげをしました。青い大空に、たこが高く上がりました。」と、正しく鉛筆を持ち、背筋を伸ばして書いていました。

また、3年生は「友だち」、4年生は「美しい空」、5年生は「新しい風」、6年生は「夢の実現」をこれまでに学習した知識・技能を生かして点画の筆遣いや字形を整えるなどの留意点に気を付けて書きました。どの学年も、真剣に、集中力を高めて取り組みました。



入賞者の紹介 入賞おめでとうございます！（敬称略）

＜ 南島原市イングリッシュ・スピーチコンテスト ＞
優秀賞 5年 Aさん

成人の日（1月の第2月曜日）のインタビューから

国民の祝日に関する法律には、成人の日を「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いあげます。」と記されています。ニュースでは、様々な各地の様子、二十歳を迎えた人々へのインタビューがありました。特に、気になったインタビュー内容に、「A I に仕事を奪われないようにしたい」という言葉がありました。

スポーツ界を例にしますと、表面的な技術ばかりに目が行きがちで、結果が求められますが、思考に裏打ちされた技術が必要だと感じます。『思考』つまり『考える力』は、何もスポーツの世界ばかりでなく、様々な分野で必要とされる大切な力だと思います。

子供たちが将来どのような道に進んでも、仕事・業務をより良く進めるためにも、A I に負けない『考える力・思いやりの力』を十分発揮できるような積み重ねを進めていきたいと思います。